

専門分野

科目名	小児看護学概論	開講時期	単位数	時間数
		1 年次後期	1	30
担当教員	専任教員			
科目目標	1. 小児発達や擁護について学び、小児看護の概念が理解できる。 2. 小児の保健統計を踏まえ、子どもを保護する法律や保健対策が理解できる。			
DP との 関 連 性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心を持ち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	小児看護の対象 子どもを取り巻く社会背景	講義・グループワーク		
2	小児と家族の諸統計 小児医療の現状 小児看護の変遷	講義		
3	子どもの権利と権利擁護 児童の権利に関する条約	講義		
4	小児看護における倫理 インフォームドアセント プレパレーション	講義		
5	発達課題 発達理論 エリクソン ボウルビィ	講義		
6	発達課題 発達理論 ピアジェ	講義		
7	小児の成長発達 成長の進み方 成長発達に影響する因子 発達評価	講義		
8	新生児期 形態的特徴 身体生理の特徴	講義		
9	新生児期 原始反射 乳児期 身体生理の特徴	講義		
10	乳児期 身体生理の特徴 感覚機能 運動機能 知的機能 コミュニケーション機能 情緒社会的機能	講義・グループワーク		
11	幼児期 知的機能 コミュニケーション機能	講義・グループワーク		
12	幼児期 情緒・社会的機能	講義・グループワーク		
13	学童期 形態的特徴 感覚運動機能 思春期 形態的特徴 発達課題	講義・グループワーク		
14	小児をめぐる法律 児童福祉法 児童虐待防止法 母子保健法	講義		
15	まとめ 筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	小児看護援助論 I	開講時期	単位数	時間数
		2 年次前期	1	15
担当教員	専任教員			
科目目標	<p>1. 子どもの発達段階に応じた日常生活と特徴を踏まえ、健全な成長発達、健康増進に向けた援助のあり方を理解する。</p> <p>2. 現代家族の特徴を踏まえ、家族への援助を理解することができる。</p>			
DP との 関 連 性	<p>3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。</p> <p>4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。</p> <p>5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。</p> <p>6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。</p> <p>8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。</p>			
回数	学習内容	授業方法		
1	新生児の養護 日常生活の世話 事故防止、感染防止	講義		
2	乳児の養護 乳児の栄養 母乳栄養、人工栄養の特徴 授乳の世話 離乳食	講義		
3	乳児の養護 日常生活の世話 事故防止 乳幼児突然死症候群	講義・グループワーク		
4	幼児の養護 日常生活の世話 基本的な生活習慣の獲得 排泄・食事	講義・グループワーク		
5	幼児の養護 日常生活の世話 基本的な生活習慣の獲得 睡眠・清潔・遊び 幼児期の事故防止 処置の方法	講義・グループワーク		
6	学童期の子どもを取り巻く環境 学童の養護 学校生活への適応 学習と遊び 安全教育 思春期の養護 生活の特徴 心の問題 思春期・青年期の健康問題の特徴と看護	講義		
7	予防接種 学校保健安全法 特別支援教育	講義		
8	筆記試験 (45 分)			
評価方法	筆記試験 100 点			
教科書	小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	小児看護援助論Ⅱ	開講時期	単位数	時間数
		2年次前期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 小児期に多い疾病の病態生理、症状、診断、治療について理解できる。			
DPとの関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を維持することができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	染色体異常・体内環境により発症する先天異常 新生児の疾患 代謝性・内分泌性疾患(1型糖尿病・成長ホルモン分泌不全性低身長症)	講義		
2	免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患(食物アレルギー・気管支喘息・若年性特発性関節炎)	講義		
3	感染症(麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・髄膜炎・百日咳) 呼吸器疾患(肺炎・クループ)	講義		
4	循環器疾患(心室中隔欠損症・フォロー四徴症・川崎病)	講義		
5	消化器疾患(口蓋裂・肥厚性幽門狭窄症・ヒルシュスプルング病) 血液疾患(血友病・突発性血小板減少症紫斑病)	講義		
6	悪性新生物(急性リンパ性白血病・神経芽腫・ウィルムス腫瘍)	講義		
7	腎・泌尿器疾患及び生殖器疾患(糸球体腎炎・ネフローゼ症候群) 神経疾患(二分脊椎・てんかん・脳性麻痺)	講義		
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	小児臨床看護各論 医学書院			
実務経験	本科目は医師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	小児看護学援助論Ⅲ	開講時期	単位数	時間数
		2 年次後期	1	30
担当教員	専任教員・非常勤講師			
科目目標	1. 病気や入院が子どもと家族に与える影響と援助が理解できる。 2. さまざまな健康状態・状況にある子どもと家族の看護が理解できる。			
DP との 関 連 性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	病気・障害が家族に与える影響 病気・障害に対する子どもの反応、家族の反応 子どもの健康問題と看護	講義		
2	入院中の子どもと家族の看護 外来における子どもと家族の看護	講義		
3	1 型糖尿病をもつ子どもの看護 内分泌疾患の看護 下垂体疾患をもつ子どもの看護	講義		
4	食物アレルギーの子どもの看護 気管支喘息の子どもの看護 主要症状の看護(呼吸困難) 酸素療法・吸入療法の看護 若年性特発性関節炎の子どもの看護	講義		
5	麻疹の子どもの看護 水痘の子どもの看護 百日咳の子どもの看護 主要症状の看護(発熱・発疹・脱水) 隔離を必要とする子どもと家族の看護	講義		
6	かぜ症候群の子どもの看護 肺炎の子どもの看護 口・鼻腔吸引 点滴内静脈注射の管理 ファロー四徴症の子供の看護 川崎病の子どもの看護	講義		
7	形態異常のある疾患の子どもの看護 消化器疾患の子どもの看護(腸重積・急性胃腸炎) 主要症状の看護(嘔吐・下痢)	講義		
8	貧血のある子どもの看護 出血傾向のある子どもの看護 輸液療法を必要とする子どもの看護 白血病の子どもの看護 骨髄検査を受ける子どもの看護	講義		
9	ネフローゼ・溶連菌感染後急逝糸球体腎炎の看護 主要症状の看護(浮腫) 活動制限・食事制限のある子どもの看護 けいれんのある子どもの看護 意識障害のある子どもの看護 腰椎穿刺を受ける子どもの看護	講義		
10	慢性期にある子どもと家族の看護 在宅療養中の子どもと家族の看護	講義		
11	急性期における子どもと家族の看護 周手術期における子どもと家族の看護	講義		
12	終末期における子どもと家族の看護 障害のある子どもと家族の看護	講義		
13	子どものアセスメント アセスメントに必要な技術 身体的アセスメント	講義・グループワーク		
14	看護過程の展開	講義・グループワーク		
15	筆記試験 2 回			
評価方法	筆記試験 疾患看護 50% 経過別看護・身体的アセスメント・看護過程 50%を総合して評価する			
教科書	小児臨床看護各論 医学書院 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			